(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-214616
(P2005-214616A)
(43)公開日　平成17年8月11日(2005.8.11)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
F24C 11/00	F24C 11/00	B	
F24C 15/16	F24C 15/16	F	
F24C 15/18	F24C 15/18	A	

審査請求 有　請求項の数 9　ＯＬ　（全 6 頁）

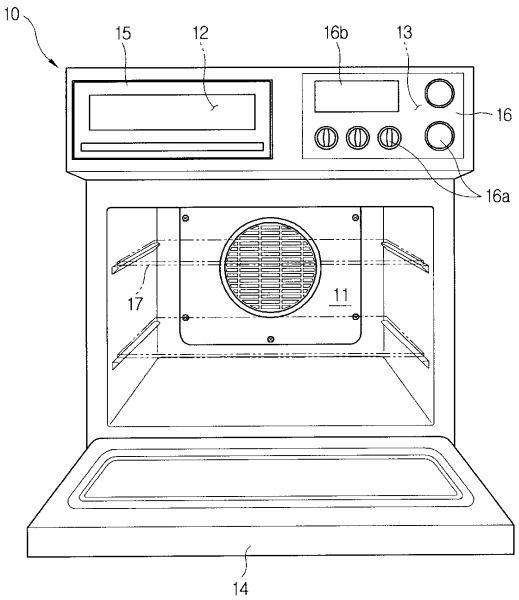
(21)出願番号　特願2004-310121 (P2004-310121)
(22)出願日　平成16年10月25日 (2004.10.25)
(31)優先権主張番号　2004-006721
(32)優先日　平成16年2月2日 (2004.2.2)
(33)優先権主張国　韓国 (KR)

(71)出願人　390019839
三星電子株式会社
Ｓａｍｓｕｎｇ　Ｅｌｅｃｔｒｏｎｉｃｓ　Ｃｏ．，Ｌｔｄ．
大韓民国京畿道水原市靈通区梅灘洞４１６
４１６，Ｍａｅｔａｎ－ｄｏｎｇ，Ｙｅｏｎｇｔｏｎｇ－ｇｕ，Ｓｕｗｏｎ－ｓｉ　Ｇｙｅｏｎｇｇｉ－ｄｏ，Ｒｅｐｕｂｌｉｃ　ｏｆ　Ｋｏｒｅａ
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100089037
弁理士　渡邊　隆
(74)代理人　100108453
弁理士　村山　靖彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】加熱調理機

(57)【要約】
【課題】　多様な大きさの調理物を効率よく調理できる加熱調理機を提供する。
【解決手段】　外観をなす本体と、異なる容積をもつ多数の調理室と、前記多数の調理室をそれぞれ個別的に加熱する多数の加熱装置とを含むことにより、多様な大きさの調理物を、異なる容積をもつ多数の調理室のうち何れか一つに選択的に収容して調理できるので、調理物を大きさに応じて効率よく加熱調理することができる効果がある。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
外観をなす本体と、
異なる容積をもつ多数の調理室と、
前記多数の調理室をそれぞれ個別的に加熱する多数の加熱装置とを含むことを特徴とする加熱調理機。
【請求項２】
前記多数の調理室は、所定の大きさの容積をもつ主調理室と、前記主調理室に比べて相対的に少ない容積をもつ補助調理室とを含むことを特徴とする請求項１に記載の加熱調理機。
【請求項３】
前記主調理室と前記補助調理室は、調理物の収納および取り出しのために開放された開放部と、前記主調理室と前記補助調理室の開放部に設けられて前記主調理室と前記補助調理室を開閉する主ドアと補助ドアとをそれぞれ含むことを特徴とする請求項２に記載の加熱調理機。
【請求項４】
前記本体においては、前記主調理室の上側に前記補助調理室と、動作制御のための各種電装品が設置される電装室とが設けられていることを特徴とする請求項２に記載の加熱調理機。
【請求項５】
前記加熱装置は、前記主調理室の後方側に配置されて送風力を発生させるファンと、前記ファンの半径方向の外側に環状に配置されて熱を放射することにより前記ファンから吐き出された空気を加熱する主ヒーターとを含むことを特徴とする請求項２に記載の加熱調理機。
【請求項６】
前記加熱装置は、前記補助調理室の上部および下部にそれぞれ配置されて熱を放射することによりその間に配置された調理物を調理する補助ヒーターを含むことを特徴とする請求項２に記載の加熱調理機。
【請求項７】
前記補助調理室と電装室は主調理室の上側の左右に並んで配置されていることを特徴とする請求項４に記載の加熱調理機。
【請求項８】
主ドアの下段は本体の下部にヒンジ結合されて上下に回動しながら主調理室を開閉させ、補助ドアは進退移動可能に配置されて進退移動しながら補助調理室を開閉させる仕組みとなっていることを特徴とする請求項３に記載の加熱調理機。
【請求項９】
補助ドアは調理物が補助ドアの進退移動に応じて補助調理室から収納および取り出しできるようにするため、調理物が載せられる安着部が後方側に延設されていることを特徴とする請求項３に記載の加熱調理機。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、加熱調理機に関し、より詳細には多様な大きさの調理物を効率よく調理できる加熱調理機に関する。
【背景技術】
【０００２】
一般に、加熱調理機は内部に設けられた調理室に調理物を入れて、これを加熱して調理する装置であって、電子レンジ、電子オーブンレンジ、ガスオーブンレンジなどがこれに属する。

【０００３】
従来の加熱調理機は外観をなす本体と、異なる容積をもつ多数の調理室と、前記調理室の調理物を加熱するためのヒーターなどの加熱装置とを含んでいる。
【０００４】
ところが、このような従来の加熱調理機は調理室が多様な大きさの調理物をすべて収容して調理できるように、非常に大きい容積で形成されている。したがって、このような従来の加熱調理機を用いて調理物を調理する場合、調理物の大きさに関係なく調理室全体の温度を上昇させて調理物を調理しなければならないため、大きさの小さい調理物を加熱調理する場合には、調理物の加熱に用いられず、無駄に失われる熱がすごく多いという問題点がある。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
従って、本発明は、前述した従来の問題点を解決するために案出されたものであり、多様な大きさの調理物を効率よく加熱して調理できる加熱調理機を提供することにその目的がある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
前記目的を達成するために、本発明に係る加熱調理機は、外観をなす本体と、異なる容積をもつ多数の調理室と、前記多数の調理室をそれぞれ個別的に加熱する多数の加熱装置とを含むことを特徴とする。
【０００７】
また、前記多数の調理室は、所定の大きさの容積をもつ主調理室と、前記主調理室に比べて相対的に少ない容積をもつ補助調理室とを含むことを特徴とする。
【０００８】
また、前記主調理室と前記補助調理室は、調理物の収納および取り出しのために前方側に開放され、前記主調理室と前記補助調理室の開放部には前記主調理室と前記補助調理室をそれぞれ開閉する主ドアと補助ドアとがそれぞれ配置されていることを特徴とする。
【０００９】
また、前記本体には、前記主調理室の上側に前記補助調理室と、動作制御のための各種電装品が設置されている電装室とが設けられていることを特徴とする。
【００１０】
また、前記加熱装置は、前記主調理室の後方側に配置されて送風力を発生させるファンと、前記ファンの半径方向の外側に環状に配置されて熱を放射することにより前記ファンから吐き出された空気を加熱する主ヒーターとを含むことを特徴とする。
【００１１】
さらに、前記加熱装置は、前記補助調理室の上部および下部にそれぞれ配置されて熱を放射することによりその間に配置された調理物を調理する補助ヒーターを含むことを特徴とする。
【発明の効果】
【００１２】
本発明に係る加熱調理機には異なる容積をもつ多数の調理室が設けられているので、多様な大きさの調理物を、異なる容積をもつように設けられた多数の調理室のうち何れか一つに選択的に収容して調理することができるため、調理物をその大きさに応じて効率よく加熱調理できる効果がある。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１３】
以下、本発明に係る好ましい実施形態を添付図面を参照しつつ詳細に説明する。
【００１４】
本発明による加熱調理機は、図１および図２に示したように、外観をなす本体１０と、

前記本体内に位置し異なる容積をもつ一対の調理室１１，１２と、加熱調理機の動作を制御するための各種電装品が設けられる電装室１３とを含む。

【００１５】

本発明の実施形態において、調理室１１，１２は多様な大きさの調理物をすべて受容して調理できるように所定以上の容積をもつ主調理室１１と、前記主調理室１１に比べて相対的に少ない容積をもつように形成されて、小さい大きさの調理物のみが調理できる補助調理室１２とからなる。前記主調理室１１と補助調理室１２はそれぞれ調理物の収納および取り出しのために前方側に開放されている。補助調理室１２と電装室１３は本体１０の空間を効率よく活用できるように主調理室１１の上側の左右に並んで配置されている。

【００１６】

したがって、大きさの大きい調理物を調理する場合には、調理物を主調理室１１に入れて調理を行い、大きさの小さい調理物を調理する場合には、調理物を補助調理室１２に入れて調理を行う。よって、本発明による加熱調理機は調理物の大きさに応じて効率よく調理することができて、大きさの小さい調理物を大容量の調理室で調理する際に発生し得る熱損失を大幅に低減させることができる。

【００１７】

本体１０の前面側には主調理室１１と補助調理室１２の開放部をそれぞれ開閉するために主ドア１４と補助ドア１５が設けられており、電装室１３の前面側には加熱調理機の動作を制御するための各種操作ボタン１６ａと加熱調理機の動作状態を示す表示部１６ｂなどが設けられたコントロールパネル１６が配置されている。

【００１８】

本発明の実施形態において、主ドア１４の下段は本体１０の下部にヒンジ結合されて上下に回動しながら主調理室１１を開閉させ、補助ドア１５は進退移動可能に配置されて進退移動しながら補助調理室１２を開閉させる仕組みとなっている。この際、補助ドア１５には調理物が補助ドア１５の進退移動に応じて補助調理室１２から収納および取り出しできるようにするために、調理物が載せられる安着部１５ａが後方側に延設されている。グリル部材１７，１８は主調理室１１と補助調理室１２に配置されて、調理物が主調理室１１と補助調理室１２の中央部に位置した状態でそれぞれ調理されるところである。

【００１９】

かつ、主調理室１１と補助調理室１２には内部に配置された調理物を加熱調理させるための加熱装置がそれぞれ設けられている。本発明の実施形態において、加熱装置は主調理室１１の後方側に配置されて送風力を発生させるファン１１ａと、前記ファン１１ａの半径方向の外側に環状に配置されてファン１１ａにより吐き出された空気を加熱して主調理室１１内の温度を上昇させる主ヒーター１１ｂと、補助調理室１２の上部および下部にそれぞれ配置されてグリル部材１８に載せられた調理物に直接に熱を加える補助ヒーター１２ａとを含み、主ヒーター１１ｂおよび補助ヒーター１２ａは内部に電熱線を内蔵して電源を印加することにより熱を発生させることになる。

【００２０】

したがって、主調理室１１に設けられた主ヒーター１１ｂおよびファン１１ａと補助調理室１２に設けられた補助ヒーター１２ａのうち何れか一方または両方に電源を印加することにより、主調理室１１と補助調理室１２を個別的に加熱して内部で調理することができるようになる。

【００２１】

本発明の実施形態において、加熱調理機は一対の主調理室１１と補助調理室１２とから構成されているが、これに限られる必要はなく、異なる容積をもつ多数の調理室を設けることも可能である。

【００２２】

以上、前述したように、本発明による加熱調理機には異なる容積をもつ多数の調理室が設けられているので、多様な大きさの調理物を異なる容積をもつように設けられた多数の調理室のうち何れか一つに選択的に収容して調理することができて、調理物を大きさに応

じて効率よく加熱調理できる効果がある。

【００２３】

以上、本発明について具体的な実施例を挙げて説明してきたが、本発明の思想から逸脱しない範囲内で様々な変形が可能であることは当業者にとって自明であり、従って、本発明の範囲は特許請求の範囲及びその請求の範囲と均等なものによって定められるべきである。

【図面の簡単な説明】

【００２４】

【図１】本発明による加熱調理機を示した斜視図である。

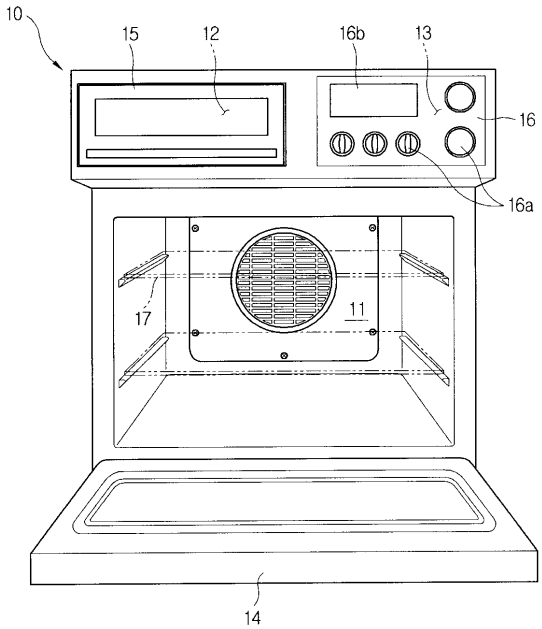
【図２】本発明による加熱調理機を示した側断面図である。

【符号の説明】

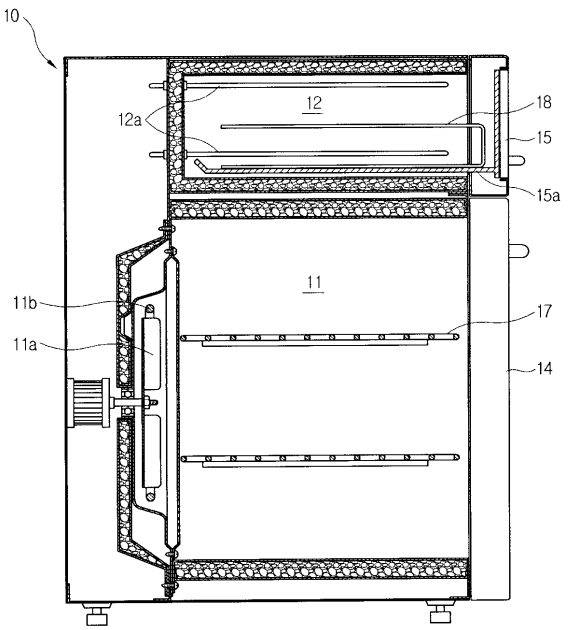
【００２５】

１０　本体
１１　主調理室
１２　補助調理室
１３　電装室
１４　主ドア
１５　補助ドア
１６　コントロールパネル
１７，１８　グリル部材

【図１】



【図２】



フロントページの続き

(74)代理人 100110364
弁理士 実広 信哉
(72)発明者 河 有楫
大韓民国京畿道水原市勸善區勸善洞１２３８ 三川里アパート１０１－６０４